

聴導犬と共に生きる

(特別活動)

対象：中学生以上

1 本時の主眼

聴導犬の仕事を実際に見た子どもたちが、音を知らせる以外の聴導犬の役割について考え合うことを通して、周囲の人々との交流が増えることも聴導犬の大事な役割であることに気づき、聴導犬ユーザーの心情に触れながら、聴覚障がいのある方への理解を深め、かかわり方を考える。

2 本時の位置

- 前時：聴導犬協会の方の講演を聴き、聴導犬がユーザーに音を知らせる様子を見た。
(講演会に代えて次頁に紹介したDVDを視聴して聴導犬に関する授業を行うことでも代えられる。)

3 人権教育の視点

- 聴導犬には音を知らせる以外にも、リスク・コミュニケーター(ユーザーの存在に気づかせたり、周りの人たちとの交流の機会をつくる)としての役割があることを理解する。(知識)
- 障がいのある方を温かく受け入れ、思いやりを持って接していこうとする。(価値・態度)

4 指導上の留意点

- 必要に応じて「リスク・コミュニケーター」という用語を提示し、解説をする。

5 展 開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導・助言・ 評価	時	備考
導入	1 前時の講演会を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・聴導犬が生活に必要な音や危険な音を聴導犬ユーザーに教えてくれる仕事の様子を見た。 ・聴導犬は訓練を受けることで様々な音を聴導犬ユーザーに伝えることができるようになっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会について覚えていることを聞き、本時の課題につなげる。(前時にDVDの視聴を行った場合は、その振り返りをする) 	5	学習カード
展開	2 聴導犬の役割について考え、意見交換をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生活に必要な音や危険な音を教えてくれる以外に、聴導犬にはどんな役割があるだろうか</div> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ではないので、淋しくない。 ・聴導犬が精神的な支えになる。 ・聴くことはできなくても聴導犬が教えてくれるので、自信を持って生活することができる。 ・他にもあるかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での意見交換でそれぞれの考えを共有した上で、次の発問につなげる。 	10	写真2枚
	3 聴導犬ユーザーの方が写っている2枚の写真を比較して、聴導犬の役割を再考する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">聴導犬ユーザーの方が写っている2枚の写真を比較して、聴導犬の役割や、ユーザーの気持ちを再度考えてみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・聴導犬がいると聴覚障がいのある方がいるということがわかる。 ・確かに聴導犬がいないと、ユーザーの方に聴覚障がいがあることには気づけないな。 ・聴導犬のおかげで聴導犬ユーザーは周りの人と交流ができて嬉しいと思う。 ・きっとまた外に出てみようという気持ちになるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴導犬がいるときといないときの周囲の反応の違いを示した写真を提示し、再考を促す。 ・聴導犬がいるときといないときのユーザーの方の気持ちの違いも考えるように発問する。 	23	

ま と め	4 今日の授業で学んだことと感じたことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・耳が聞こえない、うまく話せないという障がいがあっても、聴導犬のおかげで周囲と交流できる人もいます。 ・私も障がいのある方に敏感に気づき、支えられる人になりたい。 ・聴導犬を見かけたら、邪魔にならないように気をつけて、ユーザーの方とお話したい。 	<p>聴覚障がいのある方への理解を深めかかわり方を考えることができたか。 (学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とのかかわりで考えている生徒の感想を共有し、次時の学習につなげる。 	12	
-------------	-------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----	--

【参考資料1】 社会福祉法人 日本聴導犬協会 (聴導犬に関する問い合わせ)

上伊那郡 宮田村 7030-1 TEL 0265-85-4615 0265-85-5290
FAX 0265-85-5088 E-mail inf@hearingdog.or.jp

【参考資料2】 補助犬に関するDVD等の映像の紹介 (いずれも You Tube で視聴可能です)

この指導案では前の時間に講演会を聴く単元展開になっていますが、事情によっては以下の映像を利用して授業を行うことができます。

1 「聴導犬かるちゃんがいる時、いない時」(日本聴導犬協会)

聴導犬がいる時といない時の聴導犬ユーザーの方の生活のちがいを紹介しています。(2分22秒)

2 「補助犬ってなあに？」(日本補助犬情報センター URL: <http://www.jsdrc.jp/>)

このDVDの中では「聴導犬あみのすけと東さん」と題して小さい頃から聴覚障がいのある東さんと聴導犬あみのすけの生活の様子を紹介しています。(約5分間)

【参考資料3】 聴覚障がいは「コミュニケーション障がい」?

聴覚障がいは「コミュニケーション障がい」とも言われます。その特徴としては、まず、「障がいが見えない」ことです。周囲からの理解が乏しいために、時には孤立感や疎外感を強く感じてしまいます。2つめは、音声情報が得られにくいために、避難通報や警報音が利用できず逃げ遅れるなど、命の危険性が高いことです。そして、コミュニケーション方法が、個人個人で異なることもコミュニケーションを難しくしています。手話を使う人もいれば、口の動きを読める読話ができる人もいますし、筆談の方が良い方もいます。周囲の方との間だけでなく、聴覚障がい者同士であってもコミュニケーションが難しい場合もあるのです。

【参考資料4】 リスク・コミュニケーション、リスク・コミュニケーターとは…

「リスク・コミュニケーション」とは、危機が起こる前に、当事者、たとえば病院ならば、病院職員、警備、消防署などの管理者側だけでなく、患者や患者の家族、病院近辺の住人など、災害時の当事者となる人々が、「考えられる災害について、自分には何ができるとか、何をしてほしい」とか、ニーズや可能性を話し合う段階のことです。このコミュニケーションが図られることで、危機時の当事者がお互いに助けあえることでのリスク回避や軽減が図られることとなります。特に東日本大震災以降、聴導犬にはこの「リスク・コミュニケーター」としての役割が期待されるようになりました。

そばにいても存在さえわからなかった聴覚障がい者に気付かせ、周囲に聴覚障がいによる生活での問題点への関心呼び起こす。「言葉」ではなく、「存在」するだけで、聴覚障がいについて気づかせ、聴導犬のユーザーが自分から情報の補助や手助けを求めなくても、周囲からの自主的なサポートを提供してもらう。そして最終的には、事故や災害などの緊急時において、周囲と聴覚障がい者とのコミュニケーションに役立つことにつながるのではないのでしょうか。

NHK「視点・論点」(2013年4月22日放送) 日本聴導犬協会会長有馬もとさんのお話より

本時で使用する2枚の写真

【聴導犬ユーザーが聴導犬と一緒にいるとき（駅構内）】

本時使用する写真については、心の支援課にお問い合わせください

【聴導犬ユーザーが一人にいるとき①（駅構内）】

本時使用する写真については、心の支援課にお問い合わせください